

教科等	授業改善の視点（担当）	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①国語の言語事項・漢字の定着【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いることによる語彙の拡張【ICT 機器の活用】	①国語の言語事項・漢字の正答率が50%に満たない児童が25%程度いる。 ②「授業は分かりやすい」のアンケートに否定的な回答が9%程度いる。	①漢字・言語の練習用プリントを作成し、授業で練習をする時間を確保するとともに、自主学習でも取り組むことを推奨する。漢字・言語の正答率が50%に満たない児童が10%以下になることを目指す。 ②端末上の教材を作成・配布し、児童の意欲を引き出すとともに、取り組んだ結果を共有することで、語彙を広げる。「授業は分かりやすい」のアンケートで全員が肯定的な回答になることを目指す。
社会	①資料から読み取ったことを説明する力の育成【学校経営方針】 ②ICT 機器を活用した資料の配布と読み取ったことの共有【ICT 機器の活用】	①社会科の思考・判断・表現の正答率が50%に満たない児童が25%程度いる。 ②「授業は分かりやすい」のアンケートに否定的な回答が9%程度いる。	①資料をもとに、「何があるか」に加えて「そこから何が言えるか」を考え伝え合う活動を取り入れる。社会科の思考・判断・表現の正答率が50%に満たない児童が10%以下になることを目指す。 ②端末上の資料を作成・配布し、児童の意欲を引き出すとともに、取り組んだ結果を共有することで、読み取りが難しい児童を支援する。「授業は分かりやすい」のアンケートで全員が肯定的な回答になることを目指す。
算数	①算数の基礎的・基本的な学習内容の定着【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた問題場面の把握【ICT 機器の活用】	①算数の既習事項が定着せず、現在の学習の理解も難しい児童が10%程度いる。 ②「授業は分かりやすい」のアンケートに否定的な回答が6%程度いる。	①苦手な児童の多い習熟度コースにおいては、既習の内容を毎時間確認する時間を確保してから現在の学習に入る。算数の知識・技能の得点が50%未満の児童が全体の5%以下になることを目指す。 ②問題場面をICT 機器を活用して提示し、児童が把握して自力解決に取り組むようにさせる。「授業は分かりやすい」のアンケートで全員が肯定的な回答になることを目指す。
理科	①理科における現象とその要因を結び付けて考え説明する力の育成【学校経営方針】 ②ICT 機器を活用した教材の提示と考察の共有【ICT 機器の活用】	①理科の思考・判断・表現の正答率が50%に満たない児童が13%程度いる。 ②「授業に集中して取り組んでいる」のアンケートに否定的な回答が6%程度いる。	①自然現象や実験結果について、「どうしてそうなるか」を考え伝え合う活動を取り入れる。理科の思考・判断・表現の正答率が50%に満たない児童が7%以下になることを目指す。 ②端末上の資料を作成・配布し、児童の意欲を引き出すとともに、考察を共有することで、読み取りが難しい児童を支援する。「授業に集中して取り組んでいる」のアンケートで全員が肯定的な回答になることを目指す。
音楽	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】 ②興味・関心を高め、理解を深めるためのICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が96%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②アンケート項目「授業はわかりやすい」に対して「あまりそう思わない」の回答をした児童が6%いる。音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くことや、器楽の技能の習熟に関して、一人ひとりの学習過程に応じた支援の充実が必要であると考えられる。	①感覚統合が促進されるような常時活動や、体を動かす活動を取り入れ、児童に選択させたり、可能な範囲で児童に任せたりして主体的に活動できるようにする。 ②実態に即した教材を選ぶことで学習意欲を喚起し、ICT を活用して、自分に合ったパートや楽譜を選択できるようにして、スモールステップで、モチベーションを持続させて学習に取り組むことができるようにする。また、鑑賞で感じ取ったことを伝える手段は、絵や色、図形楽譜などを認めるなど、児童の得意な方法で表現できるようにする。

<p>図画 工作</p>	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②振り返り活動、相互鑑賞の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が98%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考えられる。</p>	<p>①紙版画や木材へのくぎ打ちなど、表し方や材料・用具についての経験を充実させていく。今後、様々な表し方や材料・用具の中から自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行う。今後のアンケートで「すすんで学習している」という質問項目に対して95%以上の肯定的な回答を得られるようにしていく。</p> <p>②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習者用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
<p>体育</p>	<p>①体育の授業・運動に積極的・主体的に取り組む態度の育成【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器を用いた運動のポイントの確認と自分の運動の様子の把握・改善【ICT機器の活用】</p>	<p>①「授業にすすんで取り組んでいる」のアンケートに否定的な回答が7%程度いる。</p> <p>②「発言や質問をしっかりと聞き、ていねいに教えてくれる」のアンケートに否定的な回答が7%程度いる。</p>	<p>①単元の初めに「試しの時間」をとり、それをもとに単元の中で達成する目標を設定させる。練習と小グループの中での教え合いを通して、個人内の技能の向上を実感させる。「授業にすすんで取り組んでいる」のアンケートで全員が肯定的な回答になることを目指す。</p> <p>②学習者用端末上で資料を作成・配布し、児童の意欲を引き出すとともに、運動の様子を動画で撮影したものをしながらアドバイスを。「発言や質問をしっかりと聞き、ていねいに教えてくれる」のアンケートで全員が肯定的な回答になることを目指す。</p>
<p>外国語 活動</p>	<p>①言語活動の充実（「読む」活動の充実）【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器利用を通して意見を示させ、共有させる工夫【ICT機器の活用】</p>	<p>①高学年の「書く」学習に繋げるために中学年の学習でも少しずつ「読む」「書く」活動を取り入れ、アルファベットや英単語への慣れ親しみを深める必要がある。アルファベットの単元では、大文字の点つなぎ等を用いて「読む」活動を多く取り入れた。</p> <p>②授業アンケートにおいて、「授業中、集中して取り組んでいる」という質問項目に対して否定的な回答をした児童が1割程度いる。</p>	<p>①2学期以降も月に1回程度はアルファベット大文字を読んだり書いたりする活動を取り入れ、読む活動や書く活動に慣れさせていく。</p> <p>②ICTを活用することで児童の興味・関心に沿った学習活動を取り入れて外国語の学習へのモチベーションを高め、授業アンケートにおいて、「授業中、集中して取り組んでいる」という質問項目に対して否定的な回答をする児童が7%を切ることを目指す。特に自分の名前のアルファベット、自分の好きな物など、自分事として話せる内容について自分の意見を示す際にICTを効果的に活用する。</p>
<p>道徳</p>	<p>①自分も友達も大切にできる態度の育成【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器を用いた意見の共有と振り返りの蓄積【ICT機器の活用】</p>	<p>①i-checkの自己肯定感が低い傾向にある児童が20%程度いる。</p> <p>②i-checkの規律と思いやりが低い傾向にある児童が30%程度いる。</p>	<p>①授業で小グループの交流をする際に「そういう考えもあるね。」「なるほど。」のような受容的な反応を推奨し、個別の感じ方や表現があることを学級全体で認める雰囲気をつくる。</p> <p>②授業の振り返りを端末上のデータに入力し共有することで友達の感じ方や表現にふれさせる。授業の振り返りに加え、友達に優しくしてもらった・優しくした経験を入力し、継続・蓄積することで、自分や学級の思いやりを実感できるようにさせる。</p>